

II 中間育成

1. 方法

中間育成は次の3ヶ所（名護市運天原、名護市許田漁港、国頭村辺土名漁港）で実施した（図1）。名護市運天原については、稚魚の輸送方法、生簀への放養は前年度と同様であるが岸壁から海面中間育成施設までの距離が150mにのびたこと、従来、前垣地先に設置してある海面中間育成施設を移動して合計8面で飼育を開始した。生簀網（ $5 \times 5 \times 4$ m）は飼育魚の成長に伴い、目合いを順次3mm、5mm、10mm目に網替えを行った。餌料はマダイ用配合飼料を2～3回/日、体重の3%を目安に給餌した。

名護市許田漁港中間育成場所については今年度がはじめてである。今回は6月26日から8月8日の間は栽培漁業センター内屋内円型100t水槽で飼育、8月9日に名護市許田漁港、海面小割生簀（ $5 \times 5 \times 5$ m・10mm目）に放養して中間育成した。

国頭村辺土名漁港分も同様に6月26日から7月25日の間は栽培漁業センター内屋内円型100t水槽で飼育、7月26日に辺土名漁港内海面小割生簀（ $5 \times 5 \times 3$ m・5mm目）に放養して中間育成した。

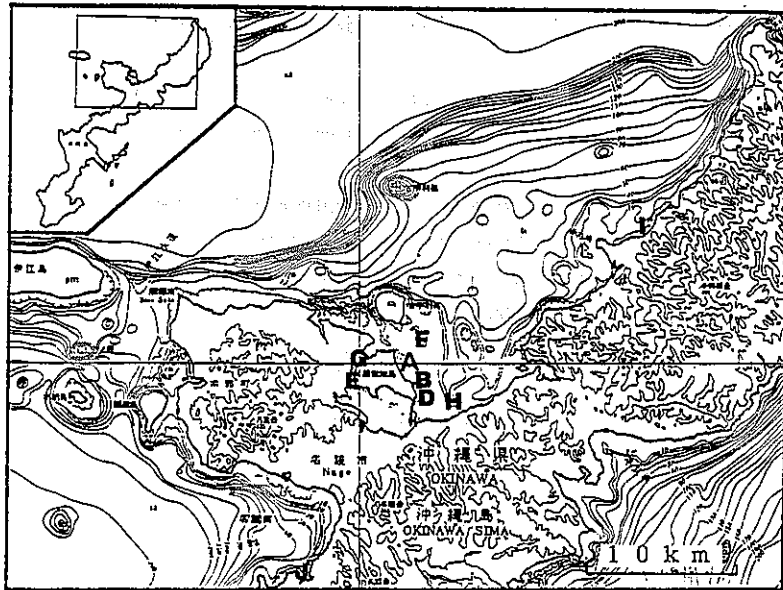


図1 中間育成場及び放流点図
（図中のG、I、Jが1991年の中間育成場及び放流点）

2. 結果

名護市運天原放流群については表2-1に示した。6月7日から10月14日（飼育日数112～133）まで飼育して、取り揚げ尾数は58,509尾（平均尾叉長107mm）生残率は37.8%と低率であった。減耗要因としては活魚水槽から海面小割生簀へ流し込むさいに距離が長すぎたことにより、酸欠状態による稚魚の活力低下、台風の度重なる襲来、接近による生簀網破損、育成魚

の逃亡によるものである。次年度は放養方法について改善する必要がある。

表 2 - 1 中間育成結果 (名護市運天原)

区分	月日	收容尾数	平均尾叉長	月日	日数	取掲尾数	生残率	平均尾叉長
		(尾)	(mm)		(日)	(尾)	(%)	(mm)
1	6/7	14,400	22.7	9/24	113	5,473	38.0	111.1±9.8
2	6/24	20,000	25.5	"	92	9,877	49.3	93.5±8.6
3	"	20,000	"	"	92	5,428	27.1	100.6±8.2
4	"	20,000	"	"	92	4,872	24.3	101.7±8.6
5	"	20,000	"	"	92	7,825	39.1	100.1±7.6
6	"	20,000	24.2	9/25	92	9,569	47.8	95.7±8.5
7	"	20,000	"	"	92	8,102	40.5	100.5±7.4
8	"	20,000	"	"	92	7,511	37.5	100.3±8.4
合計		154,400				58,657	37.9	

表 2 - 2 中間育成結果 (名護市許田漁港)

收容月日	收容尾数	尾叉長	月日	日数	取掲尾数	生残率	平均尾叉長
	(尾)	(mm)		(日)	(尾)	(%)	(mm)
6/26	41,800	23.0	8/27	59	31,078	74.8	75.4±1.0

※ 6/26~8/8の間は栽培漁業センター内屋内円型100t水槽で、それ以降は名護市許田漁港内、海面小割生簀(5×5×5m)で飼育した。

※ 腹鰭抜去時(8/6)に奇形魚及び小型魚は選別し、50mm以上の種苗25,543尾を海面小割生簀網へ放養した。

表 2 - 3 中間育成結果 (国頭村辺土名漁港)

收容月日	收容尾数	尾叉長	月日	日数	取掲尾数	生残率	平均尾叉長
	(尾)	(mm)		(日)	(尾)	(%)	(mm)
6/26	30,000	23.0	7/25	29	21,530	71.7	50.4
7/25	8,000	50.4	9/5	42	7,354	91.9	82.9±9.5
"	8,000	"	"	42	6,902	86.2	83.9±8.9
"	5,530	"	"	42	5,194	93.9	83.8±10.1
計	21,530				19,450	90.3	

※ 6/26~7/25の間は栽培漁業センター内屋内円型100t水槽で、それ以降は国頭村辺土名漁港内、海面小割生簀(5×5×3m)で飼育した。

※ 9/5は腹鰭抜去作業日